

## 第5学年 体育科学習指導案

ろ組 男子20名 女子18名 計38名

指導者 阿部 大亮

### 1 単元 ルールを工夫したティーボール

#### 2 単元について

##### (1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでの「ルールを工夫したキックベースボール」の学習を通して、自分たちに合ったルールやコート工夫しながら、ボールを蹴ったり捕ったり投げたりする動きを身に付け、出塁して得点するゲームを楽しんできている。そして、「もっと遠くへボールを飛ばしたい」「出塁を続けて得点をしたい」といった願いをもっている。

そこで、ここでは、みんながゲームを楽しむために、ボールを相手のいないところに打って出塁したり、捕球して狙ったところに送球したりする技能を高める。それと共に、みんなが攻撃や守備を楽しむことができるようなルールを工夫したり、自分のチームに応じた作戦を立てたりしてゲームを行う。そして、「点を多くとりたい」「相手の進塁を阻止したい」などの思いを連続・発展させ、友達と励まし合い、動きを高め合いながら、ボールを打つ攻撃や、隊形をとった守備などによって攻防しながら勝敗を競うベースボール型ゲームの楽しさを味わい、深めさせようとするものである。

この学習で経験した膝を曲げ体全体を使って打つ動きや肘を引いてボールを投げる動きは、第5学年「ルールを工夫したバスケットボール」での膝を曲げてシュートをする動きや肘を引いてパスを出す動きへと発展する。また、易しい投球を打ち返して走塁をしたり、定位置で守ったりする技能を身に付け、技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けることを通してゲームをする楽しさを深める中学校第1学年の「ソフトボール」の学習へも発展する。

##### (2) 指導の基本的な立場

「ベースボール型ゲーム」の楽しさは、思い切りボールを打って相手のいない所や遠くに飛ばすことで出塁や進塁を続けて得点したり、打球を捕り送球して相手の進塁を阻止したりしながら攻守交代で攻防し、勝敗を競い合うところにある。さらに、攻守交代で攻防を展開するため、攻撃や守備に関する個人やチームの課題を明確にしやすく、それらを解決したり、ルールや作戦を工夫したりすることで楽しさを深めることができる。

第5学年の「ルールを工夫したティーボール」は、ボールを相手のいないところに打ったり、打球の方向に移動して捕り、捕球する相手に向かって投げたりするなどの技能を身に付ける学習である。また、みんなが打つや投げる、捕る技能を生かして攻防する楽しさを味わうことができるようなルールを自分たちで工夫したり、勝つために自分たちのチームに応じた作戦を立てたりすることで、攻守交代型のゲームを楽しめるようになる。

このティーボールの楽しさを味わわせるためには、広角コートで守備エリアを限定するなどゲームを簡易化し、その行い方を理解させたり、目指す動きを理解させるために動画を提示し、動くイメージをもたせたりする。そして、試しのゲームを行わせ、目指す動きと自分の動きを比較させる。これらの活動を通して「もっと自分の狙ったところにボールを打てるようになりたい」「飛んでくるボールを捕り、捕球する相手に向かって投げて出塁や進塁を阻止したい」という願いをもたせ、狙ったところにボールを打つことや打球を捕って送球するための課題をつかませることが大切である。そして、動くイメージをより明確にしながらか動きを高めるために、焦点化した観点を基に動くイメージと自分の動きを比較させ、発見したコツを生かして伝え合う活動を位置付ける。さらに、主運動につながる感覚づくりや動きを高めるドリルゲーム、戦術理解を向上させるタスクゲームを位置付ける。

そこで、学習の展開としては、初めのルールでティーボールのゲーム様相や目指す動き理解させるために、動画を視聴させる。そして、試しのゲームを行わせ、「目指す動きと自分の動きを比較してどうだったか」「みんなが楽しめるルールだったか」などの観点でゲーム様相を振り返らせながら、打つ、捕る、投げるなどの動きを高めていくことやルール、チームが勝利するための作戦を工夫していくという必要感をもたせる。また、単元を通してゲームに必要な感覚や動きを身に付けさせるために、腰のひねりや前傾姿勢などの感覚づくりを取り入れた準備運動を行わせたり、打つ、投げる、捕る動きを取り入れたドリルゲームを行わせたりする。

単元の前半では、みんなが攻撃や守備を楽しむためのルールを工夫しながら、「フェアグラウンド内に強い打球を打つ」などの攻撃に関わる技能や「打球の正面に移動して捕り、オーバースローで素早く投げる」などの守備に関わる技能を身に付けさせていく。その際、動くイメージを明確に

して動きを高めさせるために、ボールを打つ際の体を回転させる方向やボールを捕球する際の姿勢・位置、腕の力の入れ具合などの動く感覚をつかむ観点を課題に応じて焦点化しながら動くイメージと自分の動きを比較させ、気付いたことを言語化し、伝え合う活動を設定する。単元の後半では、単元前半で高まった動きを生かしながら、打順や打つ方向、強さ、守備位置など自分たちのチームに合った作戦を立てさせていきたい。最後に、ティーボール大会を行い、動きの高まりやルール・作戦による楽しさの深まりを価値付けていきたい。

この学習を通して、目的に応じて打つ、投げる、捕る動きができる喜びを感じながら、攻守を交代して攻防し、勝敗を競っていくティーボールの楽しさを味わっていく。また、クラス全員が楽しさを実感するために工夫したルールと作戦の大切さ、動きの課題を解決するために、友達と動きを伝え合い、励まし合いながら練習する大切さを味わい、ボール運動やその他の運動とのかかわりを一層深めて挑戦し続けることができる。

(3) 子どもの実態（調査人数は38名、調査結果は主な項のみ表掲）

① ティーボールに対する興味・関心（複数回答）

好き	34名	○打つことが楽しい（21名） ○投げることが楽しい（12名） ○野球に似ていて楽しそう（8名） ○チームで協力できる（8名） ○捕ることが楽しい（7名） ○キックベースボールに似ていて楽しそう（3名）
嫌い	4名	○打つ、捕る、投げるのが苦手（3名） ○ルールが分からない（1名）

② 学習のめあてについて（複数回答）

○ヒットを打つこと（27名） ○投げること（8名） ○チームで協力すること（8名） ○捕ること（4名） ○ルールを工夫すること（4名） ○コツを発見すること（4名）
---

③ より楽しいゲームをするためのルールの工夫

○コートを広くする（10名） ○アウトゾーンを増やす（7名） ○得点入りやすくする（3名） ○苦手な人でも得点できる（3名） ○コートを狭くする（3名） ○アウトの仕方を工夫する（3名） ○ホームランゾーンを作る（1名） ○ボールを小さくする（1名）
---

④ 動く感覚をつかむ観点を基にした動きのコツと着目した観点（複数回答）

打つ	投げる	捕る
○ボールをよく見る（姿勢・20名） ○思いっきり振る（力の入れ具合・12名） ○中心を打つ（位置・10名） ○下から上に打つ（方向・8名） ○よい構え方をする（姿勢・3名） ○振り切る（力の入れ具合・2名）	○捕りやすい強さ・位置に投げる（力の入れ具合・位置16名） ○手をしっかりと振る（力の入れ具合・9名） ○手を後ろに引く（方向・5名） ○足を動かす（姿勢・3名） ○下から上に投げる（方向・3名）	○ボールをよく見る（姿勢・21名） ○ボールの落下点に動く（位置・12名） ○ボールの高さに体を合わせる（姿勢・9名） ○両手で捕る（姿勢・10名） ○構えておく（姿勢・1名） ○包み込むように捕る（姿勢・1名）

⑤ 技能について

	ティーのボールを打つ	ボールを投げる	投げられたボールを捕る
できる	23名	29名	20名
できない	15名	9名	18名

本学級の子どもたちは、①の興味・関心については、「打つことが楽しい」「投げるのが楽しい」などの理由でティーボール好きと答えている子どもが多い。反面、「打つ、投げる、捕ることが苦手」「ルールが分からない」という理由で嫌いと答えている子どももいる。これは、ボールを操作する技能が十分に身に付いていなかったり、ベースボール型のゲームを経験する機会が減少したりしていることが理由として考えられる。

②の学習のめあてについては、「ヒットを打つこと」「ボールを投げること」などの技能面に關わるめあてを立てたいと考えている子どもが多い。友達と互いの動きを見合いながら自分の課題を解決し、技能の向上を目指して、ゲームを楽しんでいきたいという思いが強いのではないかと考える。

③のより楽しいゲームにするためのルールの工夫については、「コートを広くしたり狭くしたりする工夫」「アウトの仕方の工夫」「得点化の工夫」などを挙げている。既習のキックベースボールの経験を生かして、攻撃したり、守ったりしながらみんなが楽しめるゲームにしていこうと考えていることが分かる。

④の動きのコツについては、「バットの振り方」や「腕の振り方」など体の動かし方について具体的に答えている子どももいるが、それらに気付いていない子どももいる。できている動きとなぜできたかという要因とを動く感覚をつかむ観点で関係付けながらコツを見付けることができていると考える。

⑤の技能については、約3分の2の子どもがティーの上のボールをバットで打つことができている



## 5 本 時 (4 / 9)

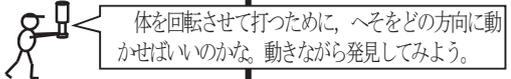
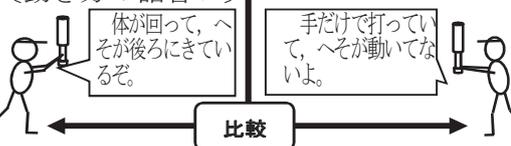
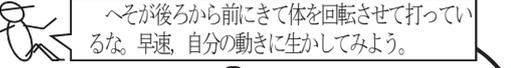
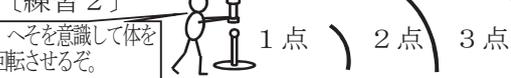
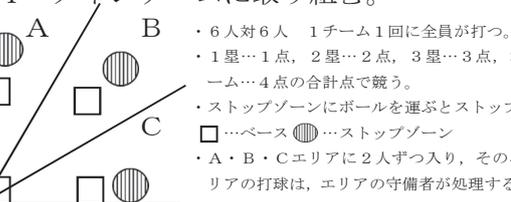
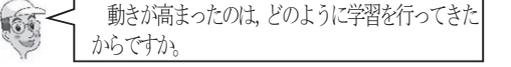
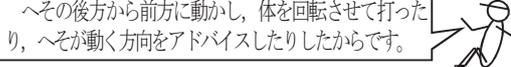
### (1) 目 標

「ボールを遠くへ飛ばして出塁したり、進塁したりしたい」という願いをもち、友達と協力し、安全に気を付けながら運動を行い、体を回転させてバッティングする際のへそに着目して、方向を観点にして体の動かし方を捉え、気付いたことを話し合い、動きを高める活動を通して、体を回転させて強い打球を打つことができる。

### (2) 本時の展開に当たって

本時では、思考を高めることを目的とした学び合いが重要だと考える。その際、**体を回転させたバッティングと回転させていないバッティングの師範をへその向きに着目させ、比較させる。**そして、「へそがどこを向いているかな。」と問い、へそが向いている方向の違いについて話し合わせ「へそが後ろから、前に回転している」などの考えを引き出しながら課題解決に取り組ませる。

### (3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・見通す	1 準備運動をする。 ○ 附属体操 ○ 感覚づくり・ドリルゲーム 2 本時のめあてについて話し合う。	(分) ↑ 5 ↓	○ 打つ動きに必要な腰や肩関節の可動範囲を広げたり、体力を高めたりするために、附属体操を行わせる。 ○ ゲームに必要な動きを高めるために腕の振りや体の回転などの感覚づくりや投げる、捕る動きなどのドリルゲームを行わせる。
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">へそが動いて体を回転させている動き</div> <span style="margin: 0 10px;">← 比較 →</span> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">へその位置が動かず、体が回転していない動き</div>		
挑戦する・工夫する	体を回転させて打つために、へそをどの方向に動かせばよいのだろう。 3 打つ動きを高める。 〔練習1〕  〔動き方の話し合い〕  比較 	↑ 5 ↓ ↑ 12 ↓	○ 本時のめあてをつかませるために、体を回転させたバッティングとそうでないバッティングを提示する。その際、「どちらの方が強く打っているかな。」「強く打つためには、どこの動きに着目すればいいかな。」と問い、へそが動く方向の大切さに気付かせていく。 ○ 体を回転させたバッティングのへそが動く方向に気付かせるために、ティーバッティングやローテーションバッティングに取り組みせ、強い打球が打てた子どもに「へそは、どこまで動いているかな。」と問いながら課題解決に取り組ませる。 ○ 体の動かし方を理解させるために、「体を回転させている動き」と「体が回転していない動き」をへそに着目させ、方向を観点に比較させながら打ち方のコツについて話し合わせる。
	〔練習2〕 へそを意識して体を回転させるぞ。 		
	4 メインゲームに取り組む。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・6人対6人 1チーム1回に全員が打つ。</li> <li>・1塁…1点、2塁…2点、3塁…3点、ホーム…4点の合計点で競う。</li> <li>・ストップゾーンにボールを運ぶとストップ</li> <li>□…ベース ●…ストップゾーン</li> <li>・A・B・Cエリアに2人ずつ入り、そのエリアの打球は、エリアの守備者が処理する。</li> </ul>	↑ 18 ↓	
生かす	5 整理運動をする。 6 本時の学習を振り返り、次時の学習への意欲を高める。  へその後方から前方に動かし、体を回転させて打ったり、へそが動く方向をアドバイスしたりしたからです。  へそが動く方向を意識して体を回転させて打つとボールが遠くまで飛んだ。	↑ 5 ↓	○ 打ち方の動くイメージを追加・修正させるために、素振りやティーバッティング、ホームランゲームなどの練習に取り組ませる。 ○ 「へそを後方から前方に動かし、体を回転させて打つ」ことを意識して課題解決に取り組ませるために、へそにシールを貼り、へその動きを確認させながらアドバイスさせる。 ○ 高まった動きを生かすために、メインゲームに取り組ませる。 ○ 動く感覚をつかむ観点のよさを実感させるために、動きの高まりの要因を動く感覚をつかむ観点の「方向」と関係付けて振り返らせる。 ○ 次時への意欲を高めるために、本時の課題や次時に解決していきたい内容について話し合わせる。